

<第4395回>

目的地：鳥海山・月山（東北）

担当者：（主）時本・（副）富平・足立 T

実施日：2023年8月9日（水）～13日（日）

形式：山小屋泊及び旅館泊山行

費用：¥65,000.

（内訳）

近鉄高速バス 大阪⇄仙台 27,300 円（12,900 円（往）、14,400 円（復））

レンタカー（3日分・保険料込） 10,564 円（116,200（3台分）/11人）

高速道路通行料・ガソリン代 1,605 円（17,660 円（3台分）/11人）

月山駐車場代（3台） 273 円（3,000円 /11 人）

滝ノ小屋（2食付） 5,500 円

旅館「かしわや」（2食付） 12,800 円

8/10 朝・昼食、8/11 昼食、8/12 昼食、8/12 夕食 計 6,000円

その他 958 円

参加者：11名

行程：

8/9 大阪・なんば（19:45）⇒大阪・東梅田（20:05）⇒京都（八条口）21:10⇒[近鉄高速バス・車中泊]

8/10 天気：快晴

7:32仙台駅前 [朝食] ⇒(8:10) レンタカー営業所(8:30) = [レンタカー・（昼食）ガスト酒田北店] ⇒(13:50) 釜磯海岸 (14:15) ⇒(15:48) 湯ノ台口コース登山口 [1,200m] (16:10) ⇒(16:30) 滝ノ小屋 [1,280m・宿泊・(17:15～) 夕食・(20:00) 消灯・就寝]

8/11 天気：快晴

(3:00頃) 起床 [(3:45頃～) 朝食] ・滝ノ小屋 (4:35) ⇒(6:02) 河原宿 [1,541m] (6:19) ⇒(8:00) 薊坂入口 ⇒(9:25) 伏拝岳 [2,121m] (9:37) ⇒(11:10) 鳥海山頂（新山）[2,236m] (11:25) ⇒(11:47) 御室小屋 [2,152m] (12:05) ⇒(13:13) 伏拝岳 (13:21) ⇒(14:15) 薊坂入口 (14:20) ⇒(15:55) 河原宿 (16:11) ⇒(17:20) 滝ノ小屋 (17:40) ⇒(18:00) 湯ノ台口コース登山口 (18:15) = [レンタカー] ⇒(20:15) 月山の宿かしわや【泊】

8/12 天気：雨後曇り

月山の宿かしわや [(6:30～) 朝食] (8:30) = [レンタカー] ⇒(8:45) 姥沢駐車場 (1,162m) ⇒(9:05) リフト下駅 (1,234m) = [リフト] ⇒リフト上駅 (1,529m) ⇒リフト下駅 ⇒姥沢駐車場 = [レンタカー] = (11:20頃) チェリーランド寒河江（道の駅）[土産物購入・昼食] (12:20頃) ⇒(仙台市内) ⇒(15:50頃) 仙台駅前 [レンタカー返却・夕食] ⇒(19:20) 宮交仙台高速バスセンター (19:40) = [近鉄高速バス・車中泊]

8/13 (6:12) 京都（八条口）⇒(7:08) 大阪（東梅田）⇒(7:28) 大阪（なんば・OGAT）

感想：

[始めに]

今回の例会の最大の目標は、鳥海山の頂上から日本海を見ることでした。このことは私（時本）個人の目標ですが、参加された多くの方にとっても、目標の上位にランクされたと思います。結果は、上天気恵まれたおかげで、最大の目標を達成して満足できたとともに、参加していただいた方にも納得していただけたのではないかと内心ホッとしています。

鳥海山と月山に登ることを決めたのは、2021年11月のことでした。当時、私は翌年に登りた

い夏山が思いつかず、TさんとAさんに行きたい山系を推薦して欲しいとメールしました。それに対してAさんから鳥海山に行きたいとお返事があり、Tさんからも鳥海山なら行ってみたいとのご連絡がありましたので、鳥海山に登ることとし、せっかくなので3人で担当しようということにしました。また大変な遠隔地に出かけて行くこととなりますので、鳥海山だけでなく月山にも登ろうということにしました。3人の役割分担としては、Tさんが参加申込受付と登山計画書作成、Aさんがレンタカー予約と2泊目の旅館予約、私が、例会案内及び例会報告作成と1泊目の山小屋予約となりました。

こうした経緯を経て2022年8月中旬に登る計画を立てたのですが、その年のお盆の時期は東北地方に線状降水帯が発生し、連日雨の予報が出たため実施できませんでした。そこで改めて2023年8月に計画し、今回の例会となりました。

[8月10日]

現地での初日、6名の方が高速バス、2名の方が新幹線、3名の方が航空機(2社)と様々な方法によって仙台に集まりました。レンタカー営業所で集合後、3台の車両に分乗し、一路北西方向の酒田市に向かいました。車中が長かったため、車中での会話の多いことが、今回の例会の一つの特徴と言えると思います。ただ、3台での移動は、間に他の車が入ることもあり、各車でカーナビが違う経路を示したこともあり、一緒に行動することは大変でした。私は先頭車を運転した機会は少なかったのですが、先頭を走っていると3台が同じように進んでいることを把握するため相当後方迄確認することが必要な場合があり、神経を使いました。最も長く先頭車を運転されたAさんは負担が多かったと思います。また、3台の車同士の連絡はスマートフォンで行ったのですが、乗車されている車が先頭車になることが多かったOさんがこまめに連絡をされたことが有効でした。

酒田市到着後、Wさんの提案で、釜磯に行くことになりました。釜磯は、数十年前に鳥海山に降った雪や雨が地下層に入り、砂浜や岩場の隙間から湧き出すところで、実際に湧水が発生している場所を見ることができます。私たちは釜磯海岸を歩いて、数カ所の湧き水のある場所を見ました。そのうちの1つにNさんが足を突っ込まれるとスッと沈んでいき、膝の少し上まで湧き水のある泥に吸い込まれました。

釜磯海岸を散策後、湯ノ台口コースの登山口まで車で行き、約20分間緩やかな坂を登って滝ノ小屋に到着しました。滝ノ小屋到着は16:30頃で、しばらくくつろいだ後、夕食をいただきました。

夕食も翌日の朝食も家庭料理的で大変おいしく、ごはんもおいしかったため、皆さん口々に宿の管理人さんや奥様に感想を述べておられました。町営ということで料金が2食付き5,500円と安いのが信じられないくらいです。

夕食後、滝ノ小屋の前で集合写真を撮影しました。当日の宿泊客は私たちだけで、少し広めのスペースで寝ることができました。それと貸し切りは気分的に楽です。私たちのメンバーの一人が、管理人さんからどういうグループかかと聞かれたため、「社会人山岳会のグループです。」と答えたところ、管理人さんから「そうでしたか。だから礼儀正しいんですね。」と言われたそうです。管理人さんからそうお聞きした人の話では、登山ツアーのお客さんと比べてではないかということでした。私たちに対する見方が影響したのか、到着直後ではなく翌日、朝ご飯を食べているときに、参加メンバー全員分の名刺を渡され、すぐに皆さんにお渡ししました。多分管理人さんは、この人たちなら名刺を配っても良いと感じられたのではないかと思います。

[8月11日]

鳥海山登頂当日は、快晴の予報でした。概ね午前3時に起床し、4時前から朝食で、体が十分に目覚めていないことを意識されたAさんの発案で、滝ノ小屋の前でラジオ体操により体をほぐしました。ほぼ毎日ラジオ体操をされていると言われただけにAさんは、体操の種別の順

番を把握され、音楽を口ずさまれましたので、体操のノリが良くなりました。

午前4:35に滝ノ小屋を出発。朝日を浴びて河原宿に向かって少しずつ標高を上げていきます。小屋を出発していきなり3カ所の渡渉があるのは驚きでしたが、その後は渡渉はありませんでした。3カ所の渡渉が終わった直後、当日起床後に体がフラフラすると言われていたTさんが、やはり体がフラフラするままだから引き返すと言われてたため、他の人に少し進んだ広い場所で待っていただくようお願いし、私が渡渉3度した滝ノ小屋手前までTさんに付いていき、再度引き返しました。後で話を伺うと、Tさんは滝ノ小屋に戻られ約1時間余り後に回復され、付近を散策されたとのことでした。

皆さんと合流後しばらく登ると、赤い屋根の滝ノ小屋が下に見えてきましたが、更に進むと見えなくなりました。河原宿までの間は標高1,300m~1,500mのところを登っていきますが、低木しか生えておらず、信州なら2,000m~2,500m程度の植生と同じような感じがします。それだけ東北地方は緯度が高く温度も低いということでしょう。また、影富士ならぬ影鳥海とでもいうべき、横から朝日を浴びた鳥海山の影が、日本海を部分的に暗くしていて、それに気が付いた皆さんは一様に驚きの声を挙げておられました。

やがて河原宿に到着しました。ここには立ち入り禁止のロープが張られた朽ちている小屋があり、その背後にトイレがありました。多分美しくないと思っていたのですが、なんと水洗できいだったので驚きでした。ここから鳥海山の頂上方面が見えたので撮影してみました。ただ、ここからでは頂上は見えません。

鳥海山・湯ノ台口登山コースでは、頂上までに2カ所の雪渓を横断します。登山口から最初にある方が長いですが、傾斜が少なく渡りやすく、2番目は傾斜が大きく、慎重に渡る必要があります。もっとも、私たちが行った時期は2番目の雪渓横断でもストックがあればアイゼンなしで渡れました。雪国育ちのSさんはストックなしでバランスを取りながら渡られていました。横断する雪渓のうち最初の雪渓は1,670m付近で意外と低い位置にあり、2番目の雪渓は少し高い位置で1,880m付近にあります。

登山道を更に上へと登っていくと、雪渓を見下ろせるようになります。海や海岸線がくっきりと見え、雪渓の白と木々の緑のコントラストも美しく映えていました。ただ上に登っていても、「同じような景色が、少しずつ小さくなって広範囲に見えるだけ」と誰かが言っていたことが言い得て妙という感じはします。私は混雑を避けるため、少し離れた位置にいて直接聞いたわけではありませんが、途中、見晴らしの良い休憩場所で、YAMAPを通じて知り合った、山形県在住や秋田県在住のYAMAP仲間と登っているグループの一人から、私たちのメンバーが「鳥海山には23回登っているが、今日が最高の天気、最高の景色だ。」と言われたそうです。確かに標高を上げていっても海岸線も庄内平野もかすまらずくっきりと見えました。

登山道から辺りを見渡すと、滝ノ小屋の管理人さんから、私たちの出発時に「今は花が満開ですよ。」と教えていただいていたとおり、いろいろな花が咲き誇っていました。ニッコウキスゲは至る所にあり、ヨツバシオガマ（四葉塩釜）やアザミもよく咲いていました。8月中旬なのにニッコウキスゲをよく見かけて高山植物が満開な様子は、赤石岳~荒川三山に行った時とよく似ていたもので、当時も同行されていたYさんに、「赤石岳~荒川三山のときの風景に似ていますね」と話しかけたところ、まったくその通りと思うということでした。鳥海山は更に雪渓があることが特徴です。ハイジの世界に近いような感じもしました。この前後、Oさんは自由投稿（本誌巻頭直後に掲載）作成のために高山植物の写真を撮り集めておられました。後日拝見した自由投稿中の「鳥海山の花図鑑」には撮影された花と名称が掲載されていて、時間を遡って、鳥海山に持って行きたかったと思ったくらいです。

やがて鳥海山頂上に当たる新山の外輪山の一角の伏拝岳に到着しました。いわば稜線に到着したため、ここからは今迄と比べて傾斜が緩くなります。伏拝岳からは、新山直下にある御室小屋やその背後に新山手前の小ピークが見通せます。また、Wさんが関心を持たれていた鳥海

湖と、鳥海湖の近くを通る吹浦口コースの登山道や北方面の男鹿半島も見渡せました。しばらく景色を見た後、外輪山に到着したということで、集合写真を撮影しました。この後、新山頂上では人が多すぎたため集合写真を撮影できず、後から考えると伏拝岳で集合写真を撮影したときに、大阪青雲会の旗を出しておいたら良かったと思いました。

伏拝岳ではオニヤンマをたくさん見かけました。昔はよく見かけたものですが最近見ておらず、久し振りに飛んで近づいてくるのを見ると大きさと勢いで怖いくらいです。さすがに模型が虫除けとして商品化されるだけのことはあると思いました。

外輪山から一旦下り新山に向かうと、岩場が現れます。私は新山への登りも下りも慎重に進んでいきましたが、7月中旬に五竜岳～鹿島槍ヶ岳を歩かれたOさんによれば、岩場のレベルは五竜岳～鹿島槍ヶ岳間の方が相当キツイということ。また、SKさんは、手頃感があったのか、楽しめたと言っておられたとか。余裕ですね。新山頂上に到着するとOさんが、登ってくるメンバーに対して、手をかけるところや登る方向について、「もう少し右」とか「左」というように掛け声によりアドバイスをされていました。

新山頂上は、先ほども述べたように、狭いうえに大変混んでいましたので、集合写真を撮影できず、早々に下山を開始しました。新山頂上までの往路は東側から御室小屋を経由せず直接登り、下りは西側のルートを通して御室小屋に立ち寄りました。頂上へのルートは、個人的には登りで通った東側の方が、下りで通った西側のルートより陰しいと思いました。御室小屋で暫く休憩した後、再び外輪山に登り、伏拝岳を経由して下山を開始しました。

帰路、高い方の雪渓を横断する際は、朝より雪の表面が融けて、歩きやすくなっているような気がしましたが、傾斜があるため油断すれば下の方に滑落します。皆さんストックを使って慎重に横断されていました。更に下ると滝ノ小屋が見えてきました。女性の何人かが、「富平さ～ん」と呼び掛けていましたが、遠すぎて聞こえるはずもなく、それに「もう駐車場に行っていないのではないか」という声もありました。その頃SKさんが、自分たちの場所や到着予定時刻をLINEで送信され、やがてTさんから返信がありましたが、やはり駐車場に行かれているとのことでした。こういった情報提供は、Tさんに安心感をもたらしたことと思います。

その後、滝ノ小屋で預かっていた荷物を回収し、湯ノ台口コース登山口からレンタカーに乗り込んで月山の南側の麓の宿に向かいました。この移動は宿を目的地としてカーナビにセットし、各車別々に走行したのですが、カーナビが間違った経路を示した車両もあって大回りを余儀なくされ、暗くなってから地理感のない土地を走ったため、時間が余計にかかりました。

宿で翌日の天気予報を確認すると、降水確率が80%となっており、私が「誰か登る人がいらっしゃれば一緒に登ります。」と声をかけましたが、どなたも登るとは仰いませんでした。なんとなく月山に登らないような雰囲気が漂っていたところ、それでも女性の何人かの方は登りたそうにされていたので、翌朝6:30の朝食の時間に登るかどうかを決定することにして寝ました。

[8月12日]

翌朝、天気予報は相変わらず降水確率が80%のまま、朝食開始の6:30の少し前から雨が降り始めたため、月山には登らないこととなりました。ところがその後雨が上がり、時間の経過と共に降ることはあってもほんの少しだけで、登ればあまり雨に降られずに登れたと思います。降水確率が80%で、意思決定したときに雨がしっかりと降っていたということに幻惑された感じがします。

少しでも月山に登った気持ちを味わいたいと思われた女性5名の方は、リフトで月山の中腹まで登りたいと言われ、他の人がリフト下駅や駐車場で待っている間に往復されました。戻ってこられたので様子を聞くと、リフトの上駅付近では朝日連峰がきれいに見渡せたとのこと

した。リフトの下の駅でも朝日連峰は見えましたが、高度が異なるので見え方が違うと思います。

その後、道の駅で土産物を購入したり昼食をいただき、レンタカーを返却した後、当日中に帰阪される方以外の8名で懇親会を開催しました。

[終わりに]

今回の例会は、参加された皆さんのお陰で円滑に進んだという気持ちが強くあります。レンタカーの運転を担当していただきました方には皆さんがくつろいでおられるときに注意力を集中していただく必要がありお世話になりました。特に、急に運転担当をお願いしたSKさん、自発的に運転できるように準備していただいたYKさんには、鳥海山登頂後の疲労した状態で夜間、地理感が無い場所を運転していただきましてありがとうございました。YさんをメインにYKさんにも、皆さんがリラックスされているときに会計の詳細な計算や集金、支払い等を行っていただきましたお陰で、私を含め皆さん安心してくつろいだり自分の用事を済ますことができました。Nさんには、急遽ラストを歩いていただいたため、長時間暑中を歩いていただくことになり、お世話になりました。直接お世話になったというわけではありませんが、YKさんには首都圏に帰るため新幹線に乗車される場所、皆さんの乗車する高速バスターミナルまでご同行いただき、丁寧なご対応に皆さん喜ばれたと思います。

Tさんは、参加される皆さんへのご対応や、登山計画書の作成等いろいろとお世話いただき、ありがとうございました。また例会中、長時間運転をしていただきましてお疲れさまでした。それにもかかわらず鳥海山に登れず残念なお気持ちを持たれていることと思います。なかなかフォローの言葉も見つからない状態ですが、今後今回の分を取り戻して余りある山行をされることを心から願っています。

今回の例会は、月山に登れなかったということが残念ですが、多くの方が参加されただけに、鳥海山の素晴らしい景色を共有できたことは良かったと思います。Wさんは、今回の例会を通じてムードメーカー的存在で、鳥海山が気に入ったのでまた違うルートで登りたいと述べておられました。鳥海山例会で素晴らしい景色を堪能できたのは上天気のお陰ですが、一方で参加された方がそれぞれご自身の持ち味を発揮して鳥海山例会を作っていただいていたと思います。お世話になり、ありがとうございました。